

## セレス吸引システム

### 再使用禁止

#### 【禁忌・禁止】

##### 使用方法

1. 吸引バッグ、吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付、病理標本採取用カップ、微量用ボトルは再使用禁止。

#### 【形状・構造及び原理等】

##### 1. 構成

###### \* (1) 吸引バッグ

型式	吸引容量
吸引バッグ・1000mL	1000mL
吸引バッグ・2000mL	2000mL
吸引バッグ・3000mL	3000mL
吸引バッグ・1000mL(凝固材入)	1000mL
吸引バッグ・2000mL(凝固材入)	2000mL
吸引バッグ・3000mL(凝固材入)	3000mL
デュアルフィルター吸引バッグ・2000mL	2000mL
デュアルフィルター吸引バッグ・3000mL	3000mL

###### (2) 吸引キャニスタ

型式	吸引容量
吸引キャニスタ・1000mL L字型コネクター付	1000mL
吸引キャニスタ・2000mL L字型コネクター付	2000mL
吸引キャニスタ・3000mL L字型コネクター付	3000mL
吸引キャニスタ・1000mL ブルーL字型コネクター付	1000mL
吸引キャニスタ・2000mL ブルーL字型コネクター付	2000mL

- \* (3) 排気用バルブ
- (4) 病理標本採取用カップ
- (5) 微量用ボトル
- (6) 吸引シフトバルブ プラスチック
- \* (7) バキュームプロテクター

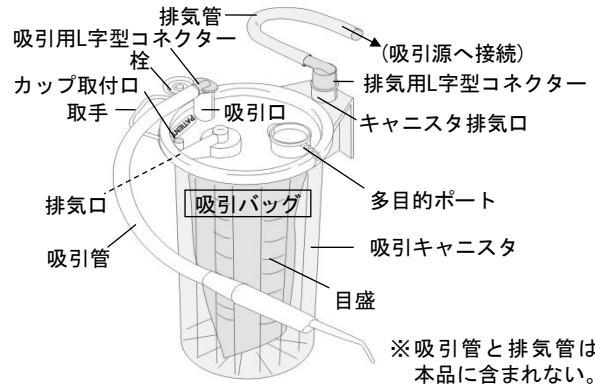
##### \* 2. 機能

名称	機能
(1) 吸引バッグ	吸引物を貯留する袋。蓋と貯留袋は一体化されている。バッグの中にあらかじめ、凝固材が入っているタイプもある。排気口には、排気中に含まれるエアロゾルを吸引し、又、吸引源側への排液の流出を防止するオーバーフローフィルターが内蔵されている。なお、オーバーフローフィルターが二重構造となっているものがデュアルフィルター吸引バッグである。
(2) 吸引キャニスタ	吸引バッグを吸引キャニスタに装着し吸引バッグの蓋を吸引キャニスタに詰め込み吸引源に接続すると、吸引バッグの内部が陰圧となり、吸引が可能になる。
(3) 排気用バルブ	吸引バッグ・吸引キャニスタを各1個使用する基本システムにおいて、吸引のON/OFF操作を行うことができる。
(4) 病理標本採取用カップ	排液と一緒に吸引された骨片や組織片等の病理標本を捕捉・採取することができる。
(5) 微量用ボトル	280mL以下の吸引された排液量を測定することができる。
(6) 吸引シフトバルブ プラスチック	2個の吸引系統(基本システム、又は、連結システム)の吸引のON/OFFを切り替えることができる。

(7) バキュームプロテクター	吸引された廃液の壁吸引側への流入を抑制することが出来る。
-----------------	------------------------------

##### 3. 構造

###### (1) 吸引バッグ 及び (2) 吸引キャニスタ



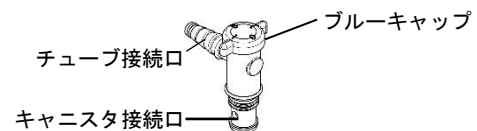
###### \* 吸引バッグの種類

吸引バッグ・1000mL 吸引バッグ・2000mL 折り畳み式バッグ

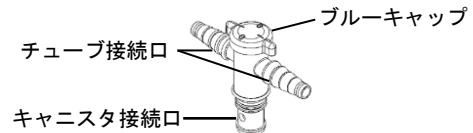


###### \* (3) 排気用バルブ

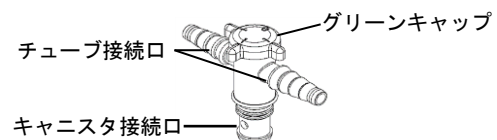
###### \* 排気用バルブ・ON/OFFバルブ



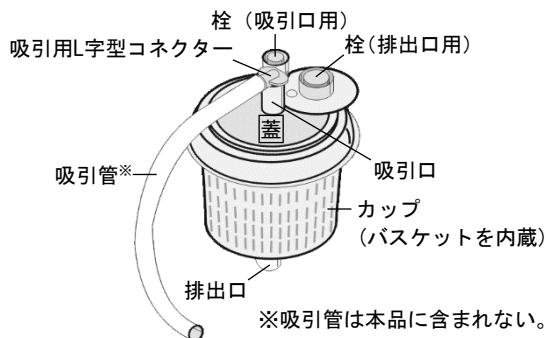
###### \* 排気用バルブ・Tバルブ



###### \* 排気用バルブ・三方バルブ

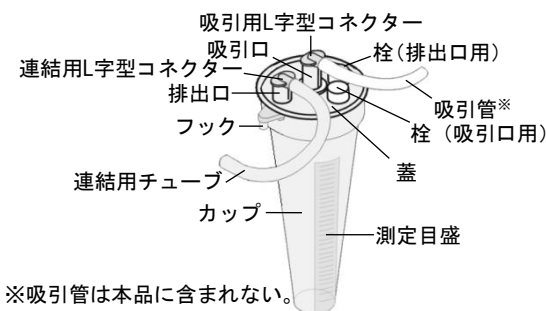


(4) 病理標本採取用カップ



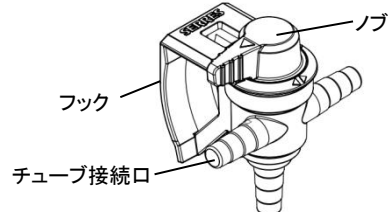
※吸引管は本品に含まれない。

(5) 微量用ボトル

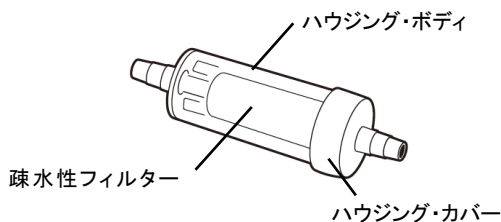


※吸引管は本品に含まれない。

\* (6) 吸引シフトバルブ プラスチック



\* (7) バキュームプロテクター



【使用目的又は効果】

陰圧により排液（血液、体液、外科手術で使用される洗浄液等）を吸引し、貯留すること。

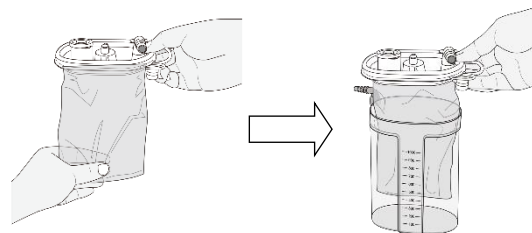
【使用方法等】

1. 基本システム：吸引バッグと吸引キャニスタ

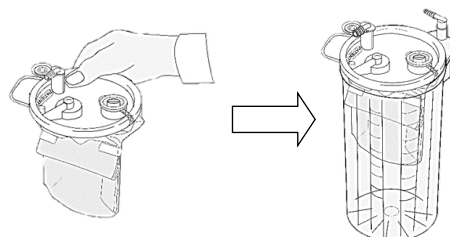
- (1) 吸引キャニスタを水平な面にセットする。
- (2) 吸引源からの排気管を吸引キャニスタ排気口に挿入されている排気用L字型コネクタに接続する。

\* (3) 吸引バッグ・1000mL 又は吸引バッグ・1000mL（凝固材入）は、ソフトバッグ部を十分に開いてから吸引キャニスタに装着する。なお、その他の吸引バッグは、バッグがテープで固定され折りたたまれた状態のまま（吸引を ON にすることでバッグが開く）又はソフトバッグ部を十分に開いてから吸引キャニスタに装着する。

\* 図 1: キャニスタへの装着（吸引バッグ・1000mL 又は吸引バッグ・1000mL（凝固材入））



\* 図 2: キャニスタへの装着（上記以外の吸引バッグ）



\* (4) 吸引を ON にして、吸引バッグの吸引口に挿入されている吸引用 L 字型コネクタの先を指で塞ぎ、同時に、吸引バッグの蓋の中央部を手で軽く押すと、吸引バッグと吸引キャニスタの間が陰圧になり、吸引バッグの蓋が吸引キャニスタにしっかりと詰め込まれる。或いは、吸引が OFF のまま、蓋を手で押して吸引バッグの蓋を吸引キャニスタにしっかりと詰め込む。この時、ソフトバッグ部分がキャニスタの縁に挟まっていないことを確認する。

図 3: キャニスタへの固定



- (5) 吸引管を吸引バッグの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクタに接続する。
- (6) 吸引を ON にして、吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっぱい膨らむまで空気を吸引する。
- (7) 吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっぱい膨らんだことを確認したら、排液の吸引を開始する。
- (8) 排液が吸引キャニスタの目盛の MAX ラインまで達したら、排液の吸引を直ちに中止する。
- (9) 吸引がONの状態のまま、吸引バッグの吸引口から吸引用L字型コネクタ・吸引管を取り外し、バッグの蓋に備え付けの栓で吸引口を密閉し、吸引バッグの多目的ポートを開け凝固材を注入してポートを閉じる。
- (10) 吸引を OFF にする。
- (11) 吸引バッグの蓋の取手をつかみ吸引バッグを吸引キャニスタから静かに取り出す。
- (12) 吸引バッグ（吸引用L字型コネクタを含む）は単回使用である。使用後は吸引バッグと吸引管を廃棄処分すること。
- (13) 吸引キャニスタ（排気用L字型コネクタを含む）は再使用可能である。

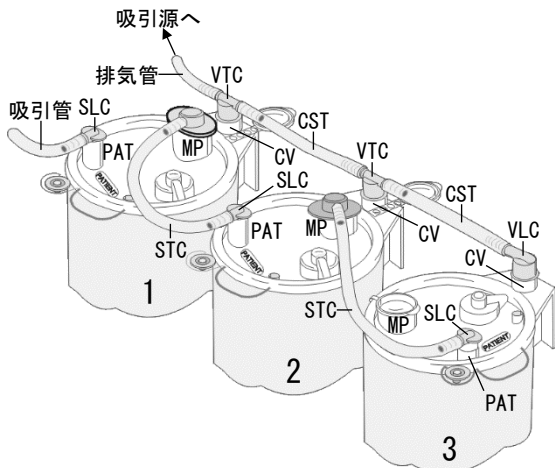
【関連注意】

● 吸引バッグのオーバーフローフィルターが作動して、吸引が停止した場合には、そのまま放置せず速やかに吸引バッグを適切に交換し処理すること。[継続的な高陰圧の負荷により破損のおそれがある]

## 2. 連結システム: 吸引バッグと吸引キャニスタの連結

- (1) 最後尾の吸引キャニスタ 3 のキャニスタ排気口(CV)にのみ吸引キャニスタの標準構成部品である排気用L字型コネクター(VLC)の吸引キャニスタ接続口を挿入し、それ以外の吸引キャニスタのCVにはキャニスタ連結T字型コネクター・チューブ付(VTC)の吸引キャニスタ接続口を挿入して、各コネクターのチューブ接続口の間をキャニスタ連結用チューブ(CST)で連結する。
- (2) 吸引源からの排気管を先頭の吸引キャニスタ 1 の CV に挿入されている VTC のチューブ接続口に接続する。
- (3) 折りたたまれている吸引バッグを十分に開いてから各吸引キャニスタに装着する。
- (4) 最後尾以外の吸引バッグの多目的ポート(MP)を開けて、吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付(STC)のコネクターをポートに挿し込み、チューブを隣り合う次の吸引バッグの吸引口(PAT)に挿入されている吸引用L字型コネクター(SLC)に接続し、吸引バッグを連結する。(※最後尾の吸引バッグ 3 の MPI は閉じたままである)
- (5) 吸引管を先頭の吸引バッグ 1 の PAT に挿入されている SLC に接続する。
- (6) 吸引を ON にして、全ての吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっぱい膨らむまで空気を吸引する。全ての吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっぱい膨らんだことを確認したら、排液の吸引を開始する。
- (7) 排液が最後尾の吸引キャニスタ 3 の目盛の MAX ラインまで達したら、排液の吸引を直ちに中止する。
- (8) 吸引が ON の状態のまま、吸引バッグから SLC・吸引管と STC を取り外し、バッグの蓋に備え付けの栓で PAT を密閉し、MP から凝固材を注入してポートを閉じる。
- (9) 吸引を OFF にして、吸引バッグの取手をつかみ吸引バッグを吸引キャニスタから静かに取り出す。
- (10) STC は単回使用である。使用後は吸引バッグ、吸引管とともに廃棄処分する。
- (11) 吸引キャニスタ(VLCを含む)、VTC は再使用可能である。

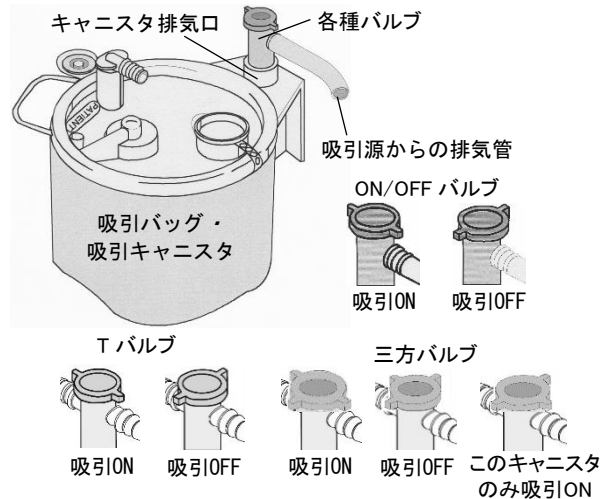
図 4: 連結使用例(3連結)



### \* 3. 排気用バルブ

- \* (1) 吸引キャニスタの排気口から排気用L字型コネクターを取り外し、代わりに排気用バルブの吸引キャニスタ接続口を吸引キャニスタの排気口に挿入する。
- \* (2) 吸引源からの排気管を排気用バルブのチューブ接続口に接続する。
- (3) シャフトを回してシャフト上に記された数字の"1"をチューブ接続口の方向に合わせれば吸引が ON となり、数字の"0"をチューブ接続口と直角方向に合わせれば吸引が OFF となる。
- (4) 本品は再使用可能である。

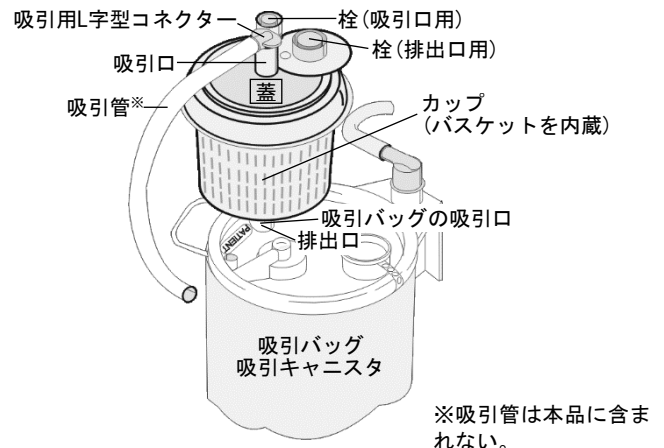
\* 図 5: 排気用バルブの位置と操作



## 4. 病理標本採取用カップ

- (1) 吸引バッグの吸引口から吸引用L字型コネクターを取り外し、代わりにカップの底の排出口を吸引バッグの吸引口に取り付ける。
- (2) カップの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクターに吸引管を接続する。
- (3) 病理標本を吸引したら、カップの吸引口から吸引用L字型コネクター・吸引管を取り外し、カップの蓋に備え付けの栓(吸引口用)で吸引口を密閉する。
- (4) カップを吸引バッグから取り外して、逆にする。
- (5) 必要に応じてホルマリン等の固定液をカップの底の排出口から注入し、カップの蓋に備え付けの栓(排出口用)で排出口を密閉する。
- (6) カップの蓋を開けて中のバスケットを取り出し、バスケットに捕捉されている標本を採取する。
- (7) 本品は単回使用である。使用後は、吸引バッグ、吸引管とともに廃棄処分する。

図 6: 病理標本採取用カップのキャニスタへの取り付け

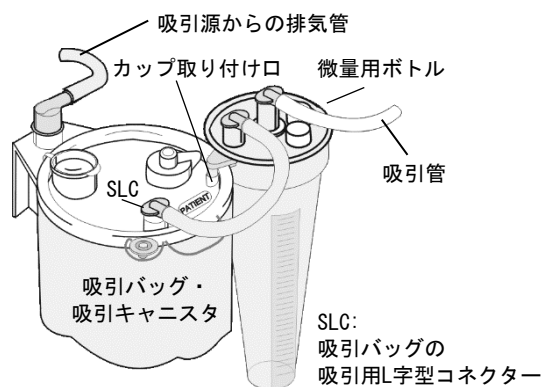


## 5. 微量用ボトル

- (1) カップのフックを吸引バッグの蓋のカップ取り付け口に挿入して、カップを吸引バッグに固定する。
- (2) カップの連結用L字型コネクターに予め接続されている連結用チューブの片側を吸引バッグの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクターに接続し、カップの排出口と吸引バッグの吸引口を連結する。
- (3) カップの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクターに吸引管を接続する。
- (4) 排液の吸引を開始する。
- (5) 吸引した排液量をカップの測定目盛で読み取る。

- (6) 排液量測定後は、そのままカップを通じて通常の排液の吸引を行うことが出来る。
- (7) 通常の吸引の途中で再び排液量の測定を行う場合は、カップの排出口と吸引バッグの吸引口を連結したままカップを吸引バッグから取り外して持ち上げてからカップを傾け、カップ内部の排液を吸引バッグに移動させてカップを空にする。
- (8) 使用後は、カップ内部の排液を吸引バッグに移動させてカップを空にしてから、カップから吸引用L字型コネクター・吸引管と連結用L字型コネクター・チューブを取り外し、カップの蓋に備え付けの栓で吸引口と排出口を密閉する。
- (9) カップを吸引バッグから取り外す。
- (10) 本品は単回使用である。使用後は、吸引バッグ、吸引管とともに廃棄処分する。

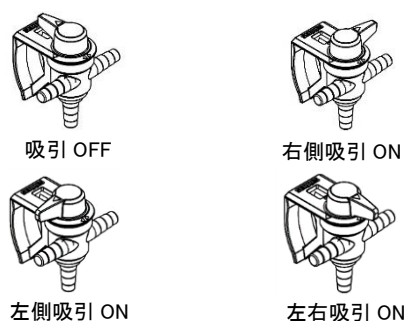
\* 図7: 微量用ボトルのキャニスタへの取り付け



#### 6. 吸引シフトバルブ プラスチック

- (1) 本品下部のチューブ接続口に吸引源からの排気管を接続し、左右のチューブ接続口と各吸引システムの吸引キャニスタの排気口に挿入されているコネクターのチューブ接続口の間をチューブで接続する。(チューブは本品に含まれない。内径 6mm × 外径 12mm のシリコンチューブを推奨する)
- (2) ノブを回してノブ上に記された矢印を左右どちらかのチューブ接続口の方向に合わせればそのチューブ接続口に接続されている吸引システムは吸引が ON となり、片方のシステムは吸引が OFF となる。
- (3) 直角方向にある OFF マークにあわせると吸引は OFF となり、反対方向にあわせると、左右が同時に吸引 ON となる。
- (4) 本品は再使用可能である。

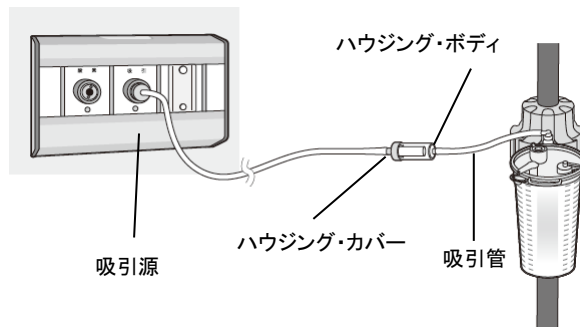
\* 図8: 吸引シフトバルブ プラスチックの動作



#### \* 7. バキュームプロテクター

- (1) ハウジング・ボディ(透明なチューブ接続口)に吸引管を接続し、他方のハウジング・カバー(緑色のチューブ接続口)に吸引源からの排気管を接続する。(図9参照)
- (2) 本品は設置後 30 日又は汚れが付着し吸引能が低下した場合、新品と交換する。

\* 図9: バキュームプロテクターの取り付けと方向



#### 【使用上の注意】

##### 重要な基本的注意

- \* 1. セレス吸引システムで吸引バッグ・1000mL、吸引バッグ・1000mL (凝固材入)を使用する際は、折りたたまれている吸引バッグを十分に伸ばして吸引キャニスタに装着すること。[吸引バッグを十分に伸ばさずに吸引を開始すると吸引バッグが不規則に絡み合って十分に膨らまず、吸引可能な容量以下でバッグが破裂する可能性がある]
2. 必ず吸引を ON の状態のまま(吸引源に接続したまま)、吸引用配管(吸引用L字型コネクター、吸引管、吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付)の取り外しと凝固材の注入、吸引バッグの密閉処理を行うこと。[排液が吸引バッグのオーバーフローフィルターに接触すると自動的に吸引が停止するが稀に排液が吸引バッグの蓋の裏側まで達し、吸引バッグが排液で完全に満杯になる場合がある。吸引バッグを密閉処理する前に、吸引源を OFF (吸引源から切断)にし、多目的ポートを開けると吸引バッグが吸引キャニスタの中で大気圧に押されて縮み、吸引した排液が吸引口や多目的ポートから逆流する可能性がある]
3. アルコール等の有機溶媒を吸引しないこと。[オーバーフローフィルターからの排液の漏れや、凝固不良の原因となる]
- \* \* 4. 使用方法によっては吸引源側へ排液が流入するおそれがあるので、バキュームプロテクター、ないしは疎水性フィルター又はトラップ等、流入を防ぐ手段を講ずること。
- \* \* 5. オーバーフローフィルターやバキュームプロテクターは、電気メスなどにより燃焼発生した煙を吸引すると、フィルターの性能が著しく低下し、吸引不良の原因になる。燃焼発生する煙吸引には専用の吸引器を使用すること。
6. 直列に吸引キャニスタを連結する吸引回路や、2 系統以上で同時に吸引する場合は、吸引性能が低下するので、事前に吸引能力を確認してから使用すること。
7. 凝固材入の吸引バッグを使用する場合は、吸引された内容物により凝固性能が低下する場合がありますので、予備の凝固材を用意し追加するなどして、内容物が飛散しないことを確認してから廃棄処理等を行うこと。
8. 吸引キャニスタはアルコール系の有機溶媒で清拭しないこと。

#### 【保管方法及び有効期間等】

##### 保管の条件

1. 湿気やほこり、塵のある場所を避け、常温で保管すること。
2. 水漏れ、ほこり、高温、多湿、直射日光にあたる場所、振動の激しい場所、凍結する場所などは避けること。
3. 直射日光を避け、水に濡れないように保管すること。

##### 有効期間

包装箱に記載。[自己認証(当社データ)による]

吸引バッグ(凝固材入)は2年

##### 使用期間

24時間を越えて同じ吸引バッグ、吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付、病理標本採取用カップ、微量用ボトルを連続使用しないこと。

**【保守・点検に係る事項】**

使用者による保守点検事項

吸引キャニスタ

1. 洗浄・消毒  
固く絞ったガーゼなどで清拭すること。
2. 滅菌  
\*エチレンオキサイドガス滅菌(E.O.G滅菌)
3. 点検  
破損・変形が見られる場合は破棄し新しい製品と交換すること。

**【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売業者及び製造業者

泉工医科工業株式会社

製造業者

セレス株式会社

(SERRES Oy)

国名:フィンランド

お問い合わせ先

泉工医科工業株式会社 商品企画

TEL 03-3812-3254 FAX 03-3815-7011